

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまからお寄せいただいた質問にお答えしています。

ご回答いただいた皆様

○奥村雅史教授（早稲田大学）

第24回日経STOCKリーグ 受賞者

○大澤さん（筑波大学附属駒場高等学校）

○前田さん（三重県立四日市高等学校）

○鈴木さん（早稲田大学）

※無記名…事務局

審査など、日経STOCKリーグ全般について

Q

評価で重視されるポイントを知りたいです。

A

審査基準の各項目を重視します。

- ①経済や株式投資の理解
- ②ポートフォリオの創造性、ユニーク性
- ③表現力・文章力
- ④学習への熱意・意気込み（アンケート調査や企業へのアプローチなどを含む）
- ⑤ポートフォリオの理論性、専門性 ※大学・専門学校部門のみ

Q

熱意が評価基準になるとのことでしたが、フィールドワークやアンケート調査をしなかった場合、熱意はどのように評価されるのでしょうか？フィールドワークやアンケート調査を実施せずに入選したレポートはこれまでにあるのでしょうか？

またレポート作成において株式投資ゲームは必須でしょうか？

A

熱意はフィールドワークやアンケート調査の有無のみで判断されるものではありませんが、フィールドワークなどを実施した方がより伝わりやすい面はあるかもしれません。実施なしのレポートが入選・入賞したケースは、いずれも多数あります。

組んだ株式ポートフォリオの値動き観察・分析は必須で、この際にバーチャル株式投資システムをご活用下さい。

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまからお寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

ポートフォリオの理論性とは？

A

大学部門のみの審査基準です。

- ①選んだ銘柄の組み入れ比率を決定する際にポートフォリオ理論（効率的フロンティア曲線）を用いる
- ②ポートフォリオとインデックス（日経平均株価やTOPIX）とのリスク・リターン等の比較するなどして、組み上げたポートフォリオが理論的に優れていることを示してください。

Q

この投資の目的は、その投資を行うことによる「金儲け」ではなく、「社会貢献ができる」といったニュアンスが強いのですか？

A

このコンテストの目的は、投資のリターンを追求するよりは、豊かな社会を実現するために投資がどういう役割を果たすかを理解するという意味合いが強いです。

投資することによって企業が成長した結果、どのような豊かな社会が実現するか、をレポートに書いてほしいです。

Q

投資のリターンはあまり重要ではないのですか？

A

500万円の仮想資金を割り振って作るポートフォリオの最終的な時価評価額は、審査に関係ありません。

ただ大学部門では「ポートフォリオの理論性、専門性」が審査項目に含まれておりますので、そのポートフォリオの妥当性などの検証はお願いしております。

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまから寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

儲けなくても評価は変わらないとおっしゃっていましたが、儲けたら加点するなど、ポートフォリオ作成の際、儲けを指標にすることは良いですか。

A

審査の際、ポートフォリオの評価額によって加点されることはありません。ポートフォリオを組む際は、評価額を指標にするよりもテーマに基づいたスクリーニングの過程を重視してください。

Q

海外投資もOKですか？

A

アジア各国に上場しているアジア株（297銘柄）は対象です。対象一覧はこちら
<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fmanabow.com%2Fsl%2Fstudy%2Fexcel%2Fasia300.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK>

Q

賞を受賞している人たちに共通点はありますか。

A

各審査項目で高い評価がついていることは勿論ですが、テーマ設定が秀逸だったり、ポートフォリオ設定までの分析が優れていたり、レポートから熱意が感じられたりと、特に秀でる要素があることも共通点かもしれません。レポートがわかりやすいことも共通しています。

Q

テーマ決めやスクリーニング、レポート作成など、大体の時期を教えてください。

A

参加を決めた時期によっても違いますが、なるべく夏までの間にテーマ決めや、スクリーニングまでは難しくても、大体どんな企業にインタビューに行きたいかなどが決まっていると良いと思います。

レポート作成の時期については、締め切り間際になって焦らないように、10～11月から執筆にとりかかると良いと思います。

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまからお寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

投資の知識をつけるオススメの方法を教えてください。

A

日本経済新聞やインターネットでいろんな情報が出ているので、日頃からニュースに関心を持ってアンテナを高めておくことが大事だと思います。

Q

日経STOCKリーグに参加し指導した教員に対するの表彰はありますか？

A

金融・経済教育の普及にご尽力いただいた指導教諭・教員の方々を表彰する「NOMURA Award」をご用意しています。

指導について

Q

指導のコツがあればお伺いしたいです。

A

私のゼミでは10年ほど参加させていただいていますが、当初はうまくいなくてどうしようかと悩んだ結果、設けたのが「サブゼミ」でした。

大事なものは「場所」と「時間」を特定すること。私自身は「サブゼミ」には全くコミットしておらず自主的に活動してもらっていますが、場所と時間が決まっていれば多少なりとも話し合うなど、決まったルーティンがあることで徐々に進んでいくので、そこは工夫したところですよ。

もう一つは進捗管理をするタイミングを定期的に設けることです。大体1～2か月に1回は、私だけでなく同輩や先輩など誰かしらが進捗チェックをしています。進捗を確認するタイミングをこまめにとることで、その際にアドバイスもできます。

私は基本的にノートタッチでアドバイスをたまにするくらいですが、それは商学部で一通り学生に知識があることが前提ですので、特殊かもしれません。

知識を実際に使う、「座学から実践に」『わかる』から『できる』にといったことを、学生はサブゼミの中で感じています。

奥村先生

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまから寄せいただいた質問にお答えしています。

テーマ設定について

Q

日経STOCKリーグのテーマは特定の産業ではなく、幅広いテーマを指定しても良いのでしょうか？例えば“インド”や“アジアの公共事業”などといったものです。

A

幅広いテーマで設定いただいて構いません。産業にこだわるものではなく、ご自身の関心のあるテーマを設定いただければと思います。

Q

テーマ設定をするにあたって、チームメンバーの興味のある分野から社会課題へと繋げる、という方法では難しいのでしょうか。社会課題から考える方が良いのでしょうか。

A

チームメンバーの興味のある分野を起点にさせていただいて良いと思います。

Q

日経STOCKリーグで過去に驚いたテーマや印象に残っているテーマはありますか。また発想力は重要だと思いますか？

A

自分達ならではの身近な問題意識に基づくテーマは印象に残りやすいかもしれません。発想力は重要で、日経STOCKリーグでは特筆すべきテーマやアイデアに対してお贈りする「アイデア賞」を設けています。

Q

テーマの選定にはどんな手段を使いましたか。

A

インターネットを使って時事的な話題やテーマを探すのも一つでした。学校で日本経済新聞のアーカイブを見ることができたので、それも活用しながら、社会で今どんなことが課題となっているのか・必要とされているのかを調べて、私たちは「食品ロス」というテーマにしました。

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまからお寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

研究テーマの定義決めについて知りたいです。例えば「食品ロス」であれば、どこまでを食品ロスに含めるかなど、スクリーニングの上で定義をいくつか決めることは必須のことだと思いますがいかがでしょうか？

A

食品ロスには「事業（会社）が捨てるもの」と「家庭で捨てるもの」に分かれており、私たちが対象としたのは「事業系」で、企業が捨てている部分を「食品ロス」と定義してレポートを作成しました。

鈴木さん

スクリーニングについて

Q

投資する企業は一つのものを決めそれを取り扱っている会社を選ぶのか、テーマ全般のものから会社を選ぶのかを教えてください。

A

設定したテーマから、自分達で決めた選定基準で銘柄を絞り込み、最終的にポートフォリオを組んでください。

Q

財務指標について解説、説明をお願いしたいです。

A

man@bowにある「日経STOCKリーグ参加者向け授業～銘柄・スクリーニング・財務分析～」動画をご参照ください。「学習ガイドブック」21頁目などにも解説があります。

<動画ギャラリー>

https://manabow.com/movie_gallery.html

<学習教材>

<https://manabow.com/sl/concept/material.html>

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまから寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

スクリーニングの際に多くは財務分析を最後にしていましたが、それはチームの目的に沿うような銘柄が最初に落ちてしまうのを防ぐためでしょうか？

A

チームによってケースバイケースかとは思いますが、審査基準に「ポートフォリオの創造性、ユニーク性」がありますので、この点も意識してスクリーニングの進め方も工夫するとよいかもかもしれません。

Q

投資したい企業はどのように探しましたか。

A

私たちの場合は3つのスクリーニングを行って投資先を決めました。まず第1スクリーニングでは「食品ロス」に関係する企業を上場企業約4000社の中から選びました。第2スクリーニングでは、本当に食品ロス削減に向けてきちんと活動しているのかを、データベースや企業の統合報告書などを読みながら選び出しました。第3スクリーニングでは財務指標などを使った定量分析を行って、最終的に20社選びました。

鈴木さん

Q

関係企業に関する調査には、こういった手段を使いましたか。

A

私たちの場合はクラウドファンディングのページなどを使って調べたのですが、新聞やテレビのニュースなどで気になった企業にヒアリングするのも良いと思います。

大澤さん

Q

スクリーニングの際にテーマに沿った独自指標を使っていると思うのですが、指標を作る上で大変な部分はありましたか？

A

（私たちのテーマである）半導体はまず技術の理解が難しかったため、それについて学び、技術には革新がとても大切だと思い至りました。そのため、技術革新を進めるための研究開発費などを重視しているかということ項目を入れ、指標を作りました。

前田さん

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまから寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

スクリーニングが進みません。始め方や条件の決め方、コツなどあれば教えてください。

A

man@bowにある「日経STOCKリーグ参加者向け授業～銘柄・スクリーニング・財務分析～」動画をご参照ください。

<動画ギャラリー>

https://manabow.com/movie_gallery.html

フィールドワークについて

Q

フィールドワークのタイミングを具体的に教えて欲しいです。

A

企業訪問だけでなく、街頭に出て調べてみるということもフィールドワークの一部です。せっかく夏休みという期間がありますので、是非この夏休みに、何か一つでも取り組んでみてください。

Q

企業訪問はどのようにするのがベストですか。

A

何がベストか言い切れませんが、テーマ設定の際、スクリーニングの際など自分達でもっと知りたい、疑問を解決したいと思いついた時に、目的と質問内容を決めて企業・官公庁にHPなどからコンタクトをとってみましょう。

Q

会社訪問は何社行きましたか？

A

私たちは企業8社と、3つの官公庁にフィールドワークを実施しました。

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまからお寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

どういった経緯でフィールドワークする企業を決めましたか？

A

私たちの場合は、私たち自身がテーマである「未利用魚」についての知識が全くなかったため、まずは知識を集めることを最優先に企業ヒアリングを行いました。その後実際に現場目線での話を聞くために漁師の方々にお話を伺ったり、知りたいことを調べていくといった感じでした。

大澤さん

バーチャル株式投資について

Q

どうやって株を買えばいいですか。

A

バーチャル株式投資システムで株式売買の体験をしていただけます。

Q

バーチャル投資はいつ頃開始するべきですか。スクリーニング完了後、投資先が決まってから行うべきですか。

Q

ポートフォリオの作成と投資計画がよくわからないので、教えてほしいです。

A

リセット機能が各チーム2回まで使えますので（11月末まで）、是非早いうちからバーチャル株式投資を使ってみてください。例えば投資テーマが決まる前までは株式売買の体験としてお使いいただき、投資先が決まった後はリセットして自分たちのポートフォリオの銘柄を入れ、値動きを見ていくといった使い方が良いと思います。

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまから寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

株式売買のコツなどはありますか。

A

私たちはバーチャル株式投資で「儲ける」ということはあまり重視しておらず、スクリーニングでどれだけ自分たちの目的に合った企業を絞り込めるかということに重点を置いていたので、その目的から外れないように企業を選出することだけに専念しました。

前田さん

Q

今は宇宙開発に関する月の株が高いと思われるのですが、その点どうお考えでしょうか？

A

日経STOCKリーグでは、株価の値動き分析は行っていただきますが、株価そのものには焦点を当てておりません。

レポート作成について

Q

レポートの作成にあたり、1番はじめに取り組んだ事はなんですか？

A

私たちはまず「目次」をはじめに作り、何を書きたいのかというのを皆で決定してからレポートを作成し始めました。

前田さん

Q

メンバーの中で役割を分担すると思いますがどのように分担しましたか？またメンバーとの共有や方針を決める際など、行き詰まったことはありましたか？

A

メンバーそれぞれ得意なことが違ったので、適正に合わせて役割分担しました。人によって忙しい時期とそうでない時期があり、もともと分担していた役割がこなせないということもあったので、そこは時間のあるメンバーがうまくフォローし合って進めました。

鈴木さん

参加者向け説明会

説明会開催にあたり、みなさまからお寄せいただいた質問にお答えしています。

Q

役割分担というお話がありましたが、具体的にはどのような役割分担をしましたか？

A

鈴木さん

メンバーがそれぞれ得意なことを発揮できるように役割分担をしました。きっかりと分業するわけではなく得意な人を中心にみんなで進める感じです。例えば、データの収集分析、文章の執筆、レポートのデザイン、スケジュールリングや外部とのやりとりなど得意な分野を任せる感じでした。

メンバーとのコミュニケーションを通して早めにそれぞれが得意なこと苦手なことを把握することが大事だと思います。

Q

皆さんの素敵なレポートタイトルはどのように決めましたか？

A

大澤さん

私たちのレポートタイトルは「地域と未来に未利用魚を」でした。

「未利用魚」だけだとテーマとして広がらないと思ったので、広い視野を持つことを伝えるためにも、地域との関連や未来を見ていくということをタイトルに込めました。

Q

レポートを作成するにあたって過去作を参考にした箇所はありますか？

A

前田さん

まず私たちはレポートがどういう流れで進んでいくものかわからなかったもので、（過去のレポートの）流れを重視しました。また過去の作品を見ることで、スクリーニングはどういう手順で行うのか（大体2～3回）など、汎用性のある知識を取り入れていました。

Q

（講演中）日経STOCKリーグのためにデザインを学んだとお答えいただいていたのですが、具体的にどこで活かされましたか。

A

前田さん

過去の入賞レポートのほか、PowerPointで資料を作るコツが載っているサイト、企業を調べている際に見やすいなと思ったサイト等を利用しました。

文字のフォント、表の作り方、見やすい色合い、文字の強調の仕方を取り入れました。